

淀川水系流域委員会殿
国土交通省近畿地方整備局殿

(丹生ダム) 異常渇水シミュレーションについての意見・質問

平成19年12月15日
「関西のダムと水道を考える会」
(代表) 野村東洋夫

淀川水系流域委員会殿

(丹生ダム) 異常渇水シミュレーションの主な論点

これまでの当会の質問と、これに対する河川管理者の回答からして、掲題シミュレーションの主な論点は次の3点に絞られると思われま

- 1) 60年確率の異常渇水において、大阪市など淀川下流部の、特に上水道の給水制限をどの程度まで許容するのか。
- 2) 60年確率の異常渇水において、淀川の維持流量の減量をどの程度まで許容するのか。(つまりは大川・神崎川の維持流量放流制限量、特に大川)
- 3) 上記の2)に関連して、60年確率の異常渇水において、河川水の使用優先順位をどのように考えるのか。

今後の委員会において、これらについての十分な審議が行われることを要望します。

国土交通省近畿地方整備局殿

(丹生ダム) 異常渇水シミュレーションについての質問

[質問1]

流域委員会での貴局(以下:河川管理者と言う)のご回答によれば、この異常渇水シミュレーションは60年確率の渇水を対象としたものとのことです。そこで先ず「**取水制限**」についてお聞きしたいのですが、私達は通常の10年確率の渇水なら兎も角も、超過渇水である60年確率の渇水となれば、これは文字通りの異常渇水であり、人生に1度あるかどうかの非常事態ですから、大阪市など淀川下流の上水道について、深夜の断水など一日のある時間帯に限定した断水が実施される日が発生しても止むを得ないと考えますが、この点についての河川管理者の見解をお示し下さい。

※私達が大阪市水道局から得た回答によれば、第65回委員会(審議資料2-3-2)で示された「**検討ケース(2)**」の取水制限の場合がこれに当たると考えられます。

[質問2]

次に淀川の「維持流量」の件でお聞きします。

私達も河川環境を大事にすべきとは勿論考えておりますが、ただこのシミュレーションの対象は60年確率の異常渇水ですから、このような非常事態においては「人間優先」とせざるを得ず、河川水の**使用優先順位**は次のようにすべきと考えますが、如何でしょうか？

- 1) 上水
- 2) 工水・農水
- 3) 維持用水

[質問3]

維持流量の件でもう1点、お聞きします。

私達の質問（受付番号1204,1205,1206）への回答において河川管理者は次の事項を認めておられます。

- 1) 昭和59年～60年渇水において、大川維持流量が約4ヶ月間に渡り、連日のように20m³/s以上の放流制限（維持流量カット）が行われたこと
 - 2) このことが住民の生活や産業活動に与えた具体的な影響としては、唯一、大阪臨海工業用水道の桜ノ宮取水場での取水に塩水障害が発生したことだけであったこと
 - 3) しかしこの取水場は廃止予定であり、現在では上記の塩水障害も発生しないこと
- 然るに「異常渇水シミュレーション」が対象とするのは淀川水系における既往最大渇水であり、60年確率とることなのですから、昭和59年～60年渇水を上回るものです。従ってこのシミュレーションにおいて大川などの維持流量放流制限を昭和59年～60年の場合と同程度に条件設定することは、むしろ当然のことと考えますが、如何でしょうか。

[質問4]

上記の3つの質問を踏まえて、最後の質問をさせていただきます。

私達は前述のように、60年確率の異常渇水の場合は

- 1) 取水制限は上水道の一定の時間断水も止むを得ない
- 2) 河川水の使用優先順位は 1) 上水 2) 工水・農水 とし、維持用水は最後とすべき
- 3) 大川の維持流量カットを昭和59年～60年渇水の時と同程度とすることは当然（神崎川も同様）

との考えの基に先般、『(丹生ダム)「異常渇水対策容量」の論拠を失った河川管理者』と題する意見書を流域委員会に提出しました（意見書No.889）。

この中で私達は、これら3つの前提条件に立てば異常渇水シミュレーションにおける琵琶湖最低水位は利用低水位まで下がらず、BSL-1.4m程度で下げ止まると主張しましたが、河川管理者もこれを認めています（受付番号1266）。

以上のことから私達は

“取水量や維持流量カットなどの条件設定を60年確率の異常渇水に見合ったものに修正すれば、シミュレーションにおいて琵琶湖水位が利用低水位を下回ることはない。従って河川管理者は実質上、丹生ダム・異常渇水対策容量の必要性の論拠を失った”

と考えておりますが、如何でしょうか？

もし否定されるのであれば、その根拠を具体的にお示し下さい。

(以上)